

巻頭言

命題を背負って

加瀬 正裕

4

特集 1

我が人生の軌跡 — 社長から市長へ —

大久保 博

5

特集 2

グローバル化の新たな時代に求められる人材…  
学生時代にいかに学び、いかに過ごすべきか

池上 浩一

14

特集 3

真のグローバル人材を育てる国際教養学部にかける思い  
自分が変われば人生も変わる — 自分らしい生き方 —

宮崎 緑

28

活躍する卒業生

本部からの報告

後藤 徳日出

32

第45期定期総会 / 第6回ホームカミングデー /

第65回瑞穂祭に多くのふれあいと活気あふれる！

第13回支部長会定期総会開催

第132回常任幹事会・幹事会開催

写真「私にとっておきの1枚」作品大募集

支部からの報告

同期会からの報告

OB会からの報告

広報・IT委員会

広報・IT委員会

広報・IT委員会

きずな編集委員会

36

36

38

38

39

42

47

54

54

55

56

57

57

59

59

61

62

63

65

同窓会活動

第3部優勝！2部昇格！優勝祝賀会・65周年記念開催 — 卓球部OB会

OB会開催 — ワンダーフォーゲル部OB会

第5回同窓会交流会開催

同窓生寄稿

懐かしき思い出工房開催報告

大相撲観戦 — 四七会

第28回ゴルフ大会開催 — 瑞穂会

卒業生のお宿・お店紹介 もつやき「藤」(居酒屋)

私の趣味

ソックスくんとのこと

学科コースの「職業(資格)が見える化」の推進 — 商経学部

倫理教育と自戒 — 政策情報学部

植村 伍廣

大矢野 潤

太田 三郎

原科 幸彦

濱野 和人

池野 辺修

勝田 啓示

高田 滋夫

植村 伍廣

大矢野 潤

太田 三郎

原科 幸彦

随筆

CUCの教育

サービス創造学部の「やってみる、という学び方」―サービス創造学部  
「地方創生」、「アクティブラーニング」、「人間社会学部」―人間社会学部

資格を「本当に」活かす ―会計ファイナンス研究科

教育改革の要、アクティブ・ラーニングについて ―教育革新センター

読書感想文コンテスト、さて来年度は？ ―図書館

スポーツ大会について ―学生部

地域連携推進基本方針の策定 ―地域連携・ネットワークセンター

地域ぐるみの国際化 ―国際センター

ダイレクトリサービス ―情報基盤センター

体育センター新人教員紹介 ―体育センター

ある授業から

こんな授業をやっています・・「プロジェクト演習」について

鈴木 孝男

77

■ ニュース・イベント

CUC×弘前市×CSV開発機構協定締結

新学食「The University DINING」オープン！

新たな学生メンチャー食堂がオープン

快挙が続く体育会所属クラブ

「瑞穂会」所属の学生が快挙

平成26年度宅地建物取引主任者資格試験に10名が合格

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ 地域連携・ネットワークセンターニュース

「教育後援会総会」と「CUC保護者会」を開催

政策情報学部朽木ゼミナールが市川市景観賞を受賞！

■ 活躍する学生の声

ボランティア活動についての思い

CUC教育後援会総会開催に際しまして

息子の成長を実感

もったもっと経営資源を活用したい

川瀬 功

89

綿引 孝子

88

宮下 律江

87

山口 孝輝

86

保護者便り

▼同窓会支部事務局一覧

90

▼編集後記

92

▼今号裏面の千葉商科大学の広告、千葉商科大学同窓会会長 加瀬正裕氏の協賛によるものです。

# 命題を背負って

加瀬 正裕

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭43 経済)



このたび、第45期定期総会において同窓会会長として再任を頂くこととなりました。時代の変化に適応すべく責任の重さを痛感するとともに、会員の皆さまには平素から同窓会活動に対して格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、45期を迎え事業計画を如何に効果的に推進するか。44期の事業評価を踏まえ、見据える今期以降は内部の議論もあり、組織の十分な見直しを図っていく方向で動いています。

こうした中、本組織最大の眼目は維持会費納入者の拡充です。多くの皆さんから頂戴する支持は尊いものですが、今ひとつ低迷状態にあると申せます。したがって、将来に亘り持続可能な組織を目指すためには多数の力を必要としており、そこに組織改革を手がける必然性がありました。ただし、発展的かつ人に優しい持続可能な組織であること。これが大義です。

これに臨むに際し、改めてその視点は、「維持会費納入者数の低迷」です。この資金の安定的確保が将来に亘って組織を左右します。母校に関心を持っていただく方々の輪の大きさが発揮しうる力の源泉です。

そこで主な確認事項は、①卒業生若手・中堅世代の活動参加促進、維持会費納入の理解と賛意獲得、②事業内容の非機動性（硬直化）からの反転へ、③事務局体制の整備と強化、等々です。これらを克服することにより、学びの学生支援に注力することが可能となります。「オール千葉商大」に向けてここが出発点です。

同窓会組織は人の集合体であるとの前提に立ち、地味ながらも息遣いのある活動を通じて掲げる諸目標の達成に努めてまいり所存です。

間もなく新卒業生を送り出す時季です。学窓を巣立つ皆さんに同窓会活動へ興味を持って参加していただけるよう、役員一同温もりある呼びかけを心がけてまいります。

# 自分が変われば 人生も変わる

## 自分らしい生き方

### 後藤 徳日出

アルファトゥリアジャパン株式会社 代表取締役社長  
平成3年3月 商経学部商学科卒業

このコーナーでは実社会で活躍する同窓生の紹介をしております。今号はアルファトゥリアジャパン株式会社代表取締役社長 後藤徳日出氏からご寄稿いただきました。

### 私の商大時代

高校時代アメリカカンファットボール部に所属した私は関東大会にも出場した経験もあり、強豪大学への入学を強く希望していましたが、3年の夏合宿で一緒だった千

葉商科大学との合同練習で川越監督と出会い、この大学と監督に魅力を感じ進学しました。余談ですが、監督の奥様は、中学の先生で驚きました(笑)。入学時期が遅れたこともあり、当時あった千葉短期大学(夜間)へ進学し、アメフト部に入部しました。高校時代とは違い、挨拶、規律、礼儀、モノを大切にすることを教えられた体育会。礼儀作法は徹底的に指導され、時間厳守、30分前集合、練習前、練習後のグラウンド整備(当時土のグラウンドだったため)、その他ボール磨きや部室掃除などなど。当時、練習



時間が午後から夕方だったため、授業のある日は、練習終了と同時に授業に出席し21時までの講義を受けていました。短大時代の2年間は、ハードな練習と慣れない生活環境の繰り返し。本当にキツイ毎日でしたが、今の自分があるのも、その経験があったからだと思います。

短大卒業後、千葉商科大学商経学部商学科に編入し3年になってからもアメフトを続け、気持ちにも余裕ができ、「勝つためには今、何ができるか」を考えるようになり、当時の主将や諸先輩方と話し合いをしたことを覚えていきます。最終学年を迎えた翌年、主将(第21期)に選ばれ、「3部ブロック優勝！入れ替え戦勝利！」の絶対目標を掲げ、今まで慣例となっていた練習方法を変え、他大学や実業団との合同練習を増やし、チームの特徴を生かし、苦手な部分を切り離し、ミーティング、話し合い、チーム力のアップを図ってきました。

大学最後のシーズンは、全勝同士の戦いで最終戦まで優勝争いに残りましたが、人数が倍以上いる相手に負けてしまいました。しかし、自分自身が大きく成長することができた年でもあり4年間の大学生活でした。また、この年から始まった関東・関西3部リーグオールスター戦にも選ばれ、同じリーグで戦った他大学の選手や他の

ブロックで活躍した選手たちと合同練習で一緒になり、貴重な時間を過ごすことができました。卒業後も、社会人チームに入団し、関東、関西の1部校の選手や、学生時代に戦った選手たちと一緒に、東京ドームや横浜スタジアムなどで試合をするなど華々しい時期を経験しました。

### 目的を見失った20代

卒業の年、世の中はバブル絶頂期で、就活環境も学生の「超」が付く売り手市場。就活も難なく熟し、残業が無い、休みが多い、給料がいいという理由だけで会社を決めました。社会人生活に慣れたころ、社会人アメフトチームに入団。しかし3年後、怪我を理由に退団。これを機に自分自身の目標、目的を見失い、気が付けば会社を退社。その後、転職することも多くなり、あつと言う間に30歳。危機感を感じて最後の転職先と決めて入社した会社が人生を変えました。

### 人生初めての飛び込み営業、そして学んだこと

入社した会社は、外資系の通信会社。そして初めての飛び込み型営業スタイル。ここでダメだったら何をやっても駄目だと思い入社しました。最初の1、2カ月は不

慣れない分、やみくもに営業活動し無駄も多くありました。が、学生時代を思い出し、目標達成するためには、毎月の新規顧客の数、見込客の数、アポイント成功率、得意とするアプローチ方法などを分析し、そして自分自身、「絶対目標達成まではやる」と決めました。そして、仕事の仕方にも変化が表れ、徐々に売上を伸ばしました。入社2年後に部下5人の課長となり、翌年はアジア圏（韓国、台湾、シンガポール、日本）で、ベストセールス5位に入賞し、海外研修にも参加しました。自分では苦手だと思い避けていた飛び込み営業。この経験がきっかけで、起業することを決意しました。

### 自分らしい生き方

2000年以降、インターネットの普及も後押しし、「起業」というキーワードが流行り始めました。実家が自営業（縫製加工、袋物製造業）でしたが、バブル崩壊後、製造業は中国に渡り、仕事も年々減少し、ミシンなどの使用頻度も減ってしまいました。そこで、ミシンなどのインフラを再利用して、自分でも使いたい！持ちたいバッグを自分で作ってオリジナルブランドを立ち上げ、インターネットで販売しようと決意し起業しました。

起業開始当初は、紆余曲折がありました。が、体育会アメリカンフットボール部で学んだこと、飛び込み営業で学んだことが生かされ、サービスマンというジャンルを勝手に作り、バッグだけにこだわらず、縫製可能なモノであれば、なんでも作るというスタンスで、困っているお客様の声をカタチに変える会社となりました。11年目を迎える2015年、いまでは、企業200社以上、個人300名以上の規模のお客様まで拡大しました。また、目標の一つでもあった地元葛飾区内の幼稚園、児童館、小学校、中学校、警察署、消防署、葛飾区が運営する施設で使われる文書交換バッグの製作を受注し、納品することができました。今後は、made in japanの商品を海外で販売する予定です。カタチに拘らない自分らしい生き方を続け、お客様に感謝される会社になりたいと思います。

### 最後に

2002年、縁あってアメフト部のヘッドコーチに就任し、勝つための努力を伝えて10年続けました。2010年、学生当時、大変お世話になったサービスマン創造学部長の吉田優治先生との再会がきっかけで、「熱

血講座」という貴重な体験をさせていただきました。  
2013年から千葉ロッテプロジェクトの特命講師にも任命していただき、現在も講義を通じて、自分の体験や経験を伝え、学生たちとかかわっています。卒業してから10年、今かかわっている学生たちに伝えられること、教えられることが生きがいと感じています。

.....  
後藤 徳日出

略歴

昭和64年(平成元年) 千葉短期大学卒業

平成3年 千葉商科大学商経学部商学科卒業

化粧品メーカー入社 以後J R物流関連、繊維製品製造卸小

売業、印刷業、外資系通信会社などの営業職

平成16年 個人事業創業

平成18年 アルファトゥリアジャパン株式会社代表取締役社長



「品川・天王洲のレストラン」勝田 啓示(昭34 商)